

第 27 回理学部鶴風会神奈川県支部総会・懇親会報告

2023 年 10 月 8 日（日）、第 27 回神奈川県支部総会・懇親会を「ワークピア横浜」にて開催しました。神奈川県支部はコロナ禍の影響で、活動休止せざるをえない状況が 3 年間続きましたが、創支部 30 周年を迎える本年度より通常どおりの活動を再開しました。また、今年度は、例年総会後に行う講演会に代えて、横浜港周辺の港散策を実施しました。

港散策では、明治の開港以来、横浜繁栄の中心となった生糸貿易に焦点をあて、横浜シティガイド協会のガイドの方と共に港周辺を散策しました。当日は、参加者 10 名がみなとみらい線「日本大通り駅」より 10:30 にスタートしました。天気は曇り空、気温 18℃、散策にはちょうど良い日でした。

今回は生糸貿易に焦点を絞ったため、まずは生糸貿易の成功者の一人である渋沢商店跡（渋沢栄一の従弟渋沢喜作創業）に向かいました。明治初期の生糸貿易成功者は、このほか中居屋、亀屋、小野商店、若尾商店があげられ、この 5 店で生糸貿易の 75%を占めていたとのことでした。ちなみに亀屋は原善三郎が開業し、孫娘の婿である原富太郎（三溪園の原三溪）が引き継ぎ、多方面の事業で発展を遂げた店です。

この後、旧横浜正金銀行（現県立歴史博物館）、旧生糸検査所、横浜開港資料館など歴史的西洋式建造物を廻り、横浜開港記念館ではペルー来航の時から生き続け、歴史の生き証人とされる「たまくすの木」も見学しました。最後は大栈橋をのぞむ横浜港で散策を終了し、総会会場に向かいました。今回は 90 分という時間制限があり、資料館等内部の見学はできなかったのが少し残念でした。



横浜税関前にて

港散策の終了後、総会が開催され、来賓 5 名、支部会員 7 名の計 12 名の出席の下、2019～2022 年度事業報告・決算報告、2023 年度事業計画及び予算案が承認されました。引き続き懇親会が行われましたが、開始の冒頭、この度逝去されました南雲 昇 元鶴風会神奈川県支部長、登坂邦雄

元鶴風会理事長の両氏に黙祷を捧げ、哀悼の意を表しました。南雲氏は神奈川県支部の初代支部長として支部の立ち上げに尽力され、登坂氏には神奈川県支部の運営にあたり多大なるご理解とご協力を頂戴いたしました。懇親会は、吉田茂雄理事長から祝辞を頂戴した後、深井 章理事の乾杯で開宴しました。今回は新たに支部会員となった昭和 57 年化学科の卒業生のほか、神奈川県支部にゆかりの深い群馬県支部の深澤恵子支部長、名和公土評議員、川口圭一評議員にもご出席いただき親しく歓談することが出来ました。また、各テーブルでは鶴風会法人化や定款のことも話題になり、当支部にとってとても貴重な時間となりました。懇親会は、最後に出席者全員で東邦大学校歌斉唱と記念撮影を行い散会しました。



懇親会参加者の記念写真

文責 神奈川県支部長 熊澤武志 (昭和 57・生物)
神奈川県副支部長 高柳満喜子 (昭和 43・生物)